メール文における挨拶表現

―韓国における日本語学習者のメール文調査から―

金庭　久美子・金　玄珠

1．はじめに

筆者らは「メール文のweb自動採点システムの開発」のために、学習者のメール文を収集している。その中で韓国人大学生のメール文において、挨拶表現が日本語母語話者とは異なるものが見られた。例えば、「あなたは留学生交流サークルの橋本君から花見の日程のメールをもらいました。持っていくものの返事をしてください。」というタスク（詳細後述）に対し、例1のようなメール文を作成した。

〈例1〉　タスク1の例

橋本さん こんにちは。 お花見の件のメールありがとうございます。 持っていくものですが、私はイチゴを1パック持って行こうと思います。 準備も参加させてもらいます。 準備の集合時間等決まり次第、また連絡ください。 よろしくお願いします。 J007（日本人大学生）

こんにちは。○○です。 メール確認しました。 私はジュース2本を持って行きます。すごくお楽しみですね。 なお、お手伝いの件ですが、私でよければよろしくお願いします。 では、何時まで行けばよろしいでしょうか。 お返事お待ちしています。 K017（韓国人大学生）

日本語の習得研究では、これまで主に文法の習得研究が行われているようであるが、本研究では、挨拶表現に注目する。

上記のメール文は、いずれのメールも大学生同士のやりとりなので、「こんにちは」で始まっている。しかし、返信メールの開始部に現れる「ありがとうございます（J007）」という表現は日本人大学生にはあるが、韓国人大学生の場合はそれが見られず、メールを読んだことに対する記述「メール確認しました（K017）」がある。また終わりの文も「よろしくお願いします（J007）」と「お返事お待ちしています（K017）」のように表現が異なる。しかしながら、内容を読むと K017 のメール文はタスクを達成しており問題があるとは言いきれない。このような韓国人大学生のメール文は他の学習者にも見られるのだろうか。

本稿では、メール文における表現について以下の点について考察を行う。

1. 日本人大学生と日本語学習者の韓国人大学生の挨拶表現にどのような違いが見られるのか
2. 日本語の能力が上がるにしたがって、その表現に変化が見られるのか

2．先行研究

メール文に関する先行研究には、依頼のメールでは李（2004）、宮崎（2007）、大友（2009）、王・聞（2015）、李・金（2016）等においてその使用状況が紹介されている。また、断りのメールでは、吉田（2009）、WORASRI（2012）、勧誘メールでは、嶋田（2013）が使用状況を述べている。また、宮崎（2007）（依頼、タイ語）、大友（2009）（依頼、中国語）、嶋田（2013）（勧誘、中国語）のように、複数の研究においてメール文の開始部と終了部に着目しており、タスクや母語背景にかかわらず、これらの箇所に表現の違いが見られることがわかる。このことから、韓国語母語話者においてもメールの開始部と終了部、特に挨拶表現の仕方に違いが見られることが予想される。

一方、金庭・金（2016）では、依頼や勧誘だけでなく他の機能のメール文を調査するため、連絡、報告、問い合わせ、お礼、断り、予定伺い、依頼、お詫びの 8 つの異なる機能のタスクを選んだ。それらを日本語学習者である韓国人大学生上位グループ、下位グループ各 10 名、日本人大学生 10 名に与え、メール文の開始部と終了部の表現を比較した。その結果、開始部では「こんにちは」「お世話になる」「ありがとう」が複数のタスクに共通して表われ、韓国人大学生と日本人大学生ではその使用数に差が見られることがわかった。また、終了部では「よろしくお願いします」「お返事お待ちしています」が複数のタスクに共通して表われたが、開始部同様、韓国人大学生と日本人大学生ではその使用数に差が見られることがわかった。そして、その使用の背景について考察を行った。しかしながら、上位グループと下位グループの顕著な差まで明らかにすることができなかった。

そこで、本研究では、金庭・金（2016）のデータをさらに人数を増やし、韓国人大学生と日本人大学生各 30 名を対象に、タスクを「連絡」（タスク 1）と「お詫び」（タスク 7）のメールに絞り、両者の使用状況について比較を行うことにする。

3．調査 1　日本語メール文の調査概要

3．1　調査対象者

調査対象者は、韓国ハンバット大学の 3，4 年生に在籍する日本語学習者（以下韓国人大学生）30 名と、福岡女子大学の 3，4 年生に在籍する日本人女子学生（以下日本人学生）30 名である。韓国人大学生には、SPOT[1]によるテストを行い、上位グループ 10 名（SPOT 83 点-88 点、平均 84.6 点）、中位グループ 10 名（SPOT 79 点-82 点、平均 81.1 点）、下位グループ 10 名（SPOT 58 点-79 点、平均 71.4 点）に分けた。これらは、便宜上 3 つのグループに分けたが、統計的に有意な差があるというわけではない。

3．2　メールタスク

金庭・金（2016）で行った 8 つのメールタスクのうち、表 1 の 2 つのタスクを選んだ。韓国人大学生には韓国語で、日本人大学生には日本語で与えた。

表 1　使用したメールタスク

タスク 1 花見の持参品の友人への連絡	당신은　유학생　교류서클의　하시모토군으로부터　하나미의 일정에　대한　메일을　받았습니다. 당신이　가지고　갈　물건에 대해　답장을　쓰십시오.
	あなたは留学生交流サークルの橋本君から花見の日程のメールをもらいました。持っていくものの返事をしてください。
	○○さん こんにちは。留学生交流サークルの橋本です。 先日、メールで連絡をしたお花見の件ですが、日程が決まりましたのでお知らせします。 ---------- 日時：4 月 10 日（金）夕方 5 時から 場所：大学　中央広場 ---------- 持ち寄りパーティーです。○○さんも何かお願いできますか？ 以下の中から、何が持ってこられそうですか？ 1. ジュース 2 本　　2. バナナ 5 本 3. いちご 1 パック　4. サラダ 2 人分 それから、準備を手伝ってくれる人を募集しています。 ○○さんは、どうですか？　お返事お待ちしています。
タスク 7 管理人への備品持ち出しのお詫	당신은　현재　유학　중인데　잠시　한국에　들어왔습니다. 그런데 기숙사의　공용스페이스에　아래　사진과　같은　가방을　놔　두고 온　게　생각이　났습니다. 기숙사의　관리인에게　메일로　어떤

[1] SPOT 実施においては、筑波大学留学生センターが開発した TTBJ（SPOT）を使用した。TTBJ の詳細は「http://ttbj.jpn.org/」を参照のこと。

び	가방인지를 설명하고 보관해 주었으면 하는 부탁을 하십시오.（鞄と鞄の中が見える写真）
	あなたは帰国しました。鞄をあけたところ、あなたが住んでいた寮のエアコンのリモコンが入っていました。寮の管理人にメールをして、謝ってください。また、返却方法を尋ねてください。（鞄と鞄の中が見える写真）

4．調査結果

調査１では、日本語で書かれたメール文の開始部と終了部の表現を見た。その中で特に「ありがとう」、名乗り方、「よろしくお願いします」に注目する。

4．1　「ありがとう」

タスク１は、メールを受け取り、その後返信するというものである。そのため、送信者に対し「ありがとう」とお礼を言うケースが見られたが、日本人大学生と韓国人大学生の間に使用数に差が見られた。表２にその結果を示す。

表２　タスク１の開始部の表現

		日本人大学生（30名）	韓国人大学生（各10名　計30名）			
			合計	上位	中位	下位
A	A1　ありがとう等	7	4	2	2	0
	A2　こんにちは＋ありがとう等	17	8	2	4	2
B	B1　拝見しました等	0	1	0	1	0
	B2　こんにちは＋拝見しました等	3	6	2	3	1
C	「こんにちは」のみ	2	9	2	0	7
D	その他	1	2	2	0	0

Aは「メールありがとうございます（日・韓）」「ご連絡ありがとうございます（日・韓）」等のように「ありがとう」を含むものである。日本人大学生の場合はA（A1, A2）が最も多く30名中24名が用いているが、韓国人大学生の場合は合計12名で日本人大学生の半数であった。また上位４名、中位６名がAを用いていたが下位は２名のみであった。Bはメールを読んだことに対して「メール拝見しました（日・韓）」「メール確認しました（日・韓）」「メールを確かに受け取りました（韓）」「了解しました（日）」等と述べているものである。日本人大学生の場合は３名のみ（B2）であるが、B（B1, B2）の表現を用いる韓国人大学生は、上位２名、中位４名、下位１名見られた。

日本人大学生の場合、冒頭に「ありがとう」を使用するものが多く、韓国人大学生の場合、それほど多くないことがわかる。また「ありがとう」の使用は、下位２名より中位６名、上位４名の方が多く、グループによる相違が見られる。

4．2　名乗り方

タスク７は、顔見知りであるものの、普段メールのやり取りをしない相手に送るという設定である。そのため冒頭で名乗る必要がある。表３にその結果を示す。

表３　タスク７の開始部の表現

	日本人大学生（30名）	韓国人大学生（各10名　計30名）			
		合計	上位	中位	下位
Eお世話になっている等	5	1	1	0	0
F住んでいる等	1	12	4	5	3
G部屋番号の＋名前	6	4	1	3	0
H「所属」の＋名前	11	7	3	2	2
I 名前のみ	4	2	0	1	1
J 冒頭の名乗りなし	2	2	0	1	1
K その他	1	2	1	0	1

Eは「いつもお世話になっている○○です」のように、読み手との関係を維持するための表現を用いたものである。日本人大学生には５名に見られた。５名の中には「○○寮○棟○号室　○○です。お世話になっております（日）」のように部屋番号を先に述べた者が１名あった。一方韓国人大学生は上位１名のみであった。Fは「寮に住んでいる韓国の留学生○○と申します（韓）」のように「住む」という動詞や「生活する」「泊まる」という動詞を用いて現状について説明するものである。韓国人大学生の場合、レベルを問わず、上位４名、中位５名、下位３名の計12名が使用しているが、日本人大学生で「住む」を使用したのは１名のみである。GやHは、自分の部屋番号や所属（学生寮の、留学生の、２年生の、等）を述べ、動詞を用いずに現状について説明するものである。日本人大学生の場合、Gは６名、Hは11名で、タスク７の中では使用が多い。韓国人大学生の場合、Gは上位１名、中位３名、下位０名、Hは上位３名、中位２名、下位２名であるが、グループによる相違はあまりない。

タスク７の特徴は、韓国人大学生は「お世話になる」という動詞を用いる者が少なく上位グループの１名であったことと、名乗る場合に、「住む」「生活する」「泊まる」という動詞を用いて自分の現状を説明する傾向（計13名）があることである。

4．3　「よろしくお願いします」

タスク１とタスク７の終了部の表現を見た結果が、表４である。

大学生の⑥を比べると、どちらも「連絡ください」と言っているが、⑥には「よろしくお願いします」が添えられていない。

このことから、日本人大学生は、「よろしくお願いします」を多用し、韓国人大学生は、「お返事お待ちしています」のように言葉にして返信要求をすることがわかる。

4．4　調査２　母語によるメール文、ならびにアンケート調査

調査１では、韓国人大学生の場合、日本人大学生に比べ、「ありがとう」の使用が少ないこと、「寮に住んでいる○○」のように「住む」「生活する」という動詞を使って名乗る場合が多いこと、タスクの内容にもよるが「よろしくお願いします」をあまり使わないことがわかった。

調査１の後、母語ではどのようなメール文を書くのかを知るために、ハンバット大学の韓国人大学生 44 名を対象に上記タスクの韓国語によるメールを書いてもらった。また、表５の日本語メール文のうち日本人大学生が書いたもの（A、C）と韓国人大学生が書いたもの（B、D）で、どちらが日本語らしいかを問い、選択の理由を書かせた。

表５　使用したメール

タスク１	A	橋本さん メールありがとうございます。 １のジュース二本を持って行こうと思います。2L ペットボトル二本でいいでしょうか？準備の手伝いはできると思います。 早めに集合場所に行けばいいでしょうか。質問ばかりになってすみません。 よろしくお願いします。
	B	橋本さん こんにちは。留学生交流サークルの○○○です。 先日頼まれた持ち物の件ですが、 私はジュース２本を持っていってもよろしいでしょうか。 それから、準備の方は何をすればいいですか。 お返事お願いします。
タスク７	C	管理人さん こんにちは。 先日まで寮でお世話になっていた○○○です 寮のエアコンのリモコンをカバンの中に入れて持って帰ってしまいました。 申し訳ありません。すぐに返したいと思っています。 返却方法を教えていただけないでしょうか。 よろしくお願いします。
	D	管理人さん こんにちは。寮に住んでいた○○○です 今は実家に移りましたが、退室のとき寮のエアコンのリモコンをうっかり持ってきてしまししました。申し訳ありません。リモコンをお返ししたいです。 どうやって返せばいいか教えてください。 連絡お待ちしています。

この 44 名のうち、前述の上位グループに当たる１名（SPOT 83 点-88 点）、中位グループに当たる５名（SPOT 79 点-82 点）、下位グループに当たる 18 名（SPOT 58

表４ タスク１とタスク７の終了部の表現

	日本人大学生 30 名		韓国人大学生 各 10 名 計 30 名 タスク１				韓国人大学生 各 10 名 計 30 名 タスク７			
	1	7	合計	上位	中位	下位	合計	上位	中位	下位
L よろしくお願いします等	15	28	2	1	1	0	18	6	6	6
M お返事・ご返信お待ちしています等	5	0	8	1	3	4	2	1	1	0
N 連絡ください・知らせてください等	0	0	5	0	2	3	0	0	0	0
O 楽しみにしています等	5	0	7	5	1	1	0	0	0	0
P ありがとう等	1	0	1	0	1	0	2	0	1	1
Q すみません・申し訳ありません等	0	0	0	0	0	0	3	2	0	1
R 挨拶なし	4	2	7	3	2	2	3	0	1	2
S その他	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1

日本人大学生の場合、タスク１とタスク７はどちらも「L よろしくお願いします等」の使用が多いが、タスク１（15 名）に比べ、タスク７（28 名）の方が多い。「よろしくお願いします」の前に書かれている文を見ると、タスク１の場合は、「①準備する人の集合時間を教えていただけますか？よろしくお願いします（日）」や「②準備の集合時間等決まり次第、また連絡ください。よろしくお願いします（日）」のように、「返事」や「返信」という語を用いずに返信要求をしている例が見られた。一方、タスク７の場合は、「③帰ってくるまでバックを保管していただけないでしょうか？　よろしくお願いいたします（日）」や「④帰寮するまでそちらでお預かりいただけますと幸いです。よろしくお願い致します（日）」のように、預かりの依頼の後で、さらに依頼をしている。タスク１に比べタスク７の方が使用数が多いのは、質問の返信よりも、鞄を預かる行為の方が、依頼の度合いが高くなるからだと考えられる。

韓国人大学生の場合、タスク１（2 名）に比べ、タスク７（18 名）の方が多いが、日本人ほど使用していない。タスク１の場合は、L の表現を用いず、「M お返事・ご返信お待ちしています等」や「N 連絡ください・知らせてください等」の返信要求が多かった。韓国人大学生は「⑤何時まで行けばよろしいでしょうか。 お返事お待ちしています（韓）」や「⑥もっと必要なものがあったらまた連絡ください（韓）」のように用いている。これらの L の表現ではグループ差は見られないが、タスク１の上位グループの M は１名、N は０名で使用が少なく、返信要求をしていない。

上記の日本人大学生の①と韓国人大学生の⑤を比べると、どちらも質問に対する返信を求めているにもかかわらず、それに続く表現が異なり、韓国人大学生は「返事」という言葉を用い、はっきりと返信要求をしている。また日本人大学生の②と韓国人

点-79 点）の 24 名を対象に、母語の傾向をみることにする。

4．5　調査２　母語によるメール文

母語によるメール文のタスク１は表６に、タスク７は表７にそれぞれ結果を示す。

表６　タスク１の表現

開始部	a-1 감사합니다 등（ありがとうございます等）	3
	a-2 잘 받았습니다 등（無事に受取りました等）	4
	b 안녕하세요　（こんにちは）	18
終了部	c 잘 부탁합니다 등（よろしくお願いします等）	0
	d 답변 기다리겠습니다 등（お返事お待ちしています等）	4

タスク１では、開始部の「감사하다 등（ありがとう等）」が 24 名中３名、「잘 받았다 등（拝見した等）」が４名、「안녕하세요（こんにちは）」が 18 名、終了部の「답장 기다린다 등（お返事お待ちしている等）」が４例見られた。

表７　タスク７の表現

開始部	a 신세지고 있습니다 등（お世話になります等）	0
	b 사는・살았던 ＜이름＞ 등（住んでいる・住んでいた＜名前＞等）	20
終了部	c 잘 부탁합니다 등（よろしくお願いします等）	0
	d 답장 기다리겠습니다 등（お返事お待ちしています等）	10

タスク７では、開始部の「사는・살았던 ＜이름＞ 등（住んでいる・住んでいた＜名前＞等）」が 24 名中 20 名、終了部の「답변 기다리겠습니다 등（お返事お待ちしています等）」が 10 名見られた。特に、タスク１の「안녕하세요（こんにちは）」、タスク７の「사는・살았던 ＜이름＞ 등（住んでいる・住んでいた＜名前＞等）」、「답변 기다리겠습니다 등（お返事お待ちしています等）」の使用が顕著であることと対照的に、タスク７の開始部の「신세지다 등（お世話になる等）」と タスク１と７の終了部の「잘 부탁합니다등（よろしくお願いします等）」の使用例が全く見られないことに注目する。

また、「日本人大学生が書いたもの（A、C）と韓国人大学生が書いたもの（B、D）で、どちらが日本語らしいか」を問うた質問では、（A、C）８名、（B、D）５名、（A、D）５名、（B、C）６名と際立った傾向は見られなかったが、中位以上の６名のうち日本語能力の高い順から４名は（A、C）を選んでいた。

また、選択・不選択の理由について問うたところ、「「メールありがとう」有り」や

「「お世話になる」有り」という記述があり、これらの表現が日本語らしい表現だと考えている可能性がある。

韓国語メールの開始部表現である「메일 잘 받았다 등（メール、無事に受取った等）」は、日本語メールの「メール、ありがとう」に相当する表現として捉えられるが、これについては、資料１の韓国人大学生の「タスク１において A を選択した理由」の記述にもそれがよく表されている。

資料１　アンケートの記述より

＜보기＞ A 와 B 답신 형태 중 ○를 선택한 이유는 ……이고 ○를 선택하지 않은 이유는 ……입니다. A를 선택한 이유는 메일을 잘 받았다는 써있기 때문에 받는 사람이 더 기분 좋은것 같고. 정중하므로 B보다 친근한 느낌이 들기 때문이다.

B는 처음에 위치상 높아서 ○○ 입니다. 그는 복잡이 공적인 느낌에 가까워서 거리가 멀게 느껴진다

＜例＞A と B のうち○を選んだ理由は……で、○を選ばなかった理由は……です。

A を選んだ理由は、メールをチャルいただきましたと書いてあるから、受取人がメール読んだ気分がよくなりそうで、B に比べて全体的に親切な感じがするからである。（後略）

以上のことから、韓国語メール文の場合、タスク１は「안녕하세요? 메일 잘 받았습니다.（こんにちは。メール、ありがとうございます。）」、タスク７は「○○에 사는・살았던 ＜이름＞입니다.（○○に住んでいる・住んでいた＜名前＞です。）」で始まるのが典型的であり、終了部はどちらも「답장 기다리겠습니다./답장 주세요.（お返事待っています。／お返事ください。）」のような返信要求の表現を使うことで相手の気を損ねることはないということがわかる。

韓国語と日本語の特徴的な表現を比較したものを表８に示す。

表８　韓国語と日本語のメール文における特徴的な表現

		韓国語（和訳）	日本語
タスク１	開始部	b 안녕하세요. 메일 잘 받았습니 다 등（こんにちは。メールいただきました等）	a こんにちは。メールありがとうございます等
	終了部	d 연락/답변 기다리겠습니다 등（ご連絡／お返事、お待ちしています等）	c よろしくお願いします等
タスク	開始部	b 안녕하세요 ○○에 사는・	a お世話になった＜名前＞

7		살았던 <이름> 입니다 등（こんにちは。〇〇に住んでいる・住んでいた<名前>です等	です等
	終了部	d 연락/답변 기다리겠습니다 등（ご連絡／お返事、お待ちしています等）	c よろしくお願いします等

5．考察

本稿では、日本人大学生と日本語学習者の韓国人大学生の挨拶表現の違いについてみた。その結果、日本人大学生は返信メールの開始部で「ありがとう」を述べることが多いこと、自分を名乗る場合、名乗る前に「お世話になっている」のように相手との関係維持の表現を用いること、メールの最後に何らかの依頼をした場合は「よろしくお願いします」を添えることがわかった。一方、韓国人大学生は返信メールでの開始部で「ありがとう」を選択しない場合、「メール拝見しました」のようにメールを受け取った事実を伝えること、寮の居住者の場合、「〇号室に住んでいる<氏名>」のように現状を伝えること、メール文の終了部では、タスクによって多少の差はあるが「よろしくお願いします」より「お返事お待ちしています」のように返信を要求することが多いことがわかった。また、上位、中位では、「ありがとう」「お世話になる」という表現が見られ、上位では「お返事お待ちしています」等の返信要求の表現が少ないという違いが見られた。このように日本語の能力が上がるにしたがって、日本人らしいと考える表現を選択することが明らかになった。

「ありがとうございます」といった挨拶の表現は日本語の勉強を始めて、最初に習う表現である。しかしながら、その後はどんな時にどのように使うのかについては習っておらず、日本人との接触を通して、自然に覚えるほかない。したがって、これらの表現を使う状況がわかるまでは、母語の知識を利用することになる。

今回の調査２の結果を見ると、韓国人大学生の母語での本来の使用状況では、タスク１の返信メールの場合、メールをもらったことに対するお礼として「ありがとう」を選択することはほとんどないが、調査１の結果からわかるように、日本語のレベルが上がるにつれ、使用が増えた。このことから、学習者は始めは母語転移で母語のルールを適用するが、徐々に日本語学習のための「独自のルール」を使用し、日本人との接触によって自然に日本語らしい使い方ができるようになることが予想される。

韓国語の「안녕하세요? 메일 잘 받았습니다.」は意訳では「こんにちは。メール、ありがとうございます」であるが、直訳では韓国語の副詞‘잘’＝「よく」と、動詞‘받았다’＝「いただく」である。韓国語の「잘」は非常に広い範囲で使われる副詞であり、文脈によってその訳も変わる。「잘 받았다」は、「잘 먹었다」（「ご馳走さま」）のような定型の挨拶表現の一種であり、メール文においては「メールありがとう」に

相当するものとして捉えられる。

前述の表２の B の表現について、韓国語の「잘 받았습니다」がどのように変化していくかについてみた。韓国人大学生の例を表９に示す。

表９　タスク１　韓国人大学生のメールの開始部の表現

下位	中位	上位の一部	上位
メールはよく受けました	メールよくいただきます メールは読みました メールの内容は確認しました。	メールを確かに受け取りました 送ってもらったメール拝見しました	花見のお知らせありがとうございます メールありがとうございます
段階Ⅰ	段階Ⅱ		段階Ⅲ

「잘 받았다」は「よく＋いただく／読んだ／受けた等」のように訳すことが可能である。表９の下位や中位にもそれらが見られる。日本語を学ぶにつれて、「よくいただく」「よく読んだ」「よく確認した」が日本語らしくないことがわかり、正しい表現としての「確かに受け取った」「拝見した」という表現を選択するようになる。この段階が「独自のルール」を使用していると言えるのではないだろうか。しかしながら、「確かに受け取った」「拝見した」よりも日本語のメール文によく使われる表現があることに気づき、最終的に日本人がよく用いる「メールありがとうございます」を使用するようになると考えられる。

これらを図に示すと、図１のようになる。本稿の対象者の一部は、日本語のルールが適用できるようになり段階Ⅲに達していると考えられる。

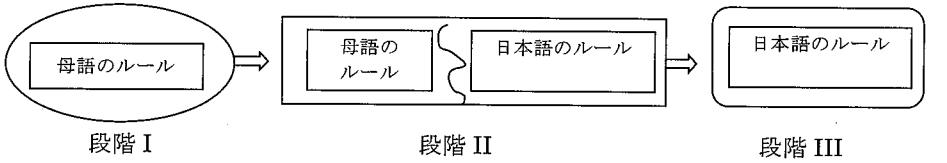

図１　日本語のルール適用の過程

一方、タスク７の名乗り方においては、「寮に住んでいる〇〇」のような表現が調査１では韓国人大学生に半数近くあり、レベルによる差も見られない。上記の図の段階Ⅰの母語のルールが強く働いているのではないかと思われる。韓国語では「住む」という表現を使って名乗ることが大変多いことからも明らかである。日本語の場合、管理人に対し「寮に住んでいる〇〇」と名乗るのは、文法的には誤りではないが日本人にとっては違和感があり、相手は日本人ではないと判断するであろう。学習者が気づかないのであれば教師が指摘することで、より日本語らしい言い方に近づけることは可

能である。

これに対し、タスク達成に支障がなければ母語と同じ言い方で述べてもよいのではないかという意見もある。たしかに、伝えたいことが伝えられれば細かい表現にこだわる必要がないかもしれない。だが、例えば名乗るために用いた「お世話になる」のような表現は、日本人とのコミュニケーションでは、非常に重要な表現である。寮の管理人との関係が疎遠である際には使わないが、親密であればこれまでの関係を維持し、これからも良い関係でありたいと思い、「いつもお世話になっている〇〇です」のような名乗り方をするのである。つまり文法的なことが問題ではなく、このような表現を用いることで日本的な人間関係が築けるのではないかと思われる。したがって、人間関係をより友好にする表現であるのなら、望ましい表現を教える方がよいのではないかと考える。

6．まとめ

本稿では、日本語学習者である韓国人大学生と日本人大学生のメール文の比較をし、その違いと日本語能力の向上に伴う変化についてみた。韓国人大学生は母語の影響を受けつつも、独自のルールを用い、より日本語らしい表現を自ら探して、目標の表現に到達することがわかった。簡単な挨拶表現でありながら、自分のものにするまでかなり遠回りをしているように思える。

日本語のルール適用の過程を導き出しつつ、本稿の結論に反することではあるが、よく使われる挨拶表現の場合、本稿で見たような段階 I から段階 III の過程を通らなくても、教師の指導で簡単に段階 III に導くことができるように思える。文法の習得の場合は、活用や用法の違いを身につけるまでに時間がかかるが、挨拶表現の場合はいつどんな時に使うのか、使ってはいけない表現は何かがわかればよく、時間もそれほど必要としない。教師にとって重要なことは、それが相手にどのように聞こえてしまうのか、或いは伝わってしまうのかを告げることだと思われる。例えば、「日本人は「お返事お待ちしています」はあまり使用しない。返事を急かされるように感じるからだ。その代りに「よろしくお願いします」を用いる」というような解説をすればよい。このような留意点を明示的に伝えることで、学習者はよりはやく目標言語に到達できるのではないだろうか。

今後も学習者の表現に注目し、この結果を日本語の授業に生かしたいと考えている。

〈参考文献〉

李善姫・金周衍（2016）「韓国人日本語学習者の E メールにおける依頼行動―日韓両言語話者との比較を通して―」『日本語文学』69、43-63、韓国日本語文学会

王玉明・聞芸（2015）「電子メールによる依頼行動に関する日中対照研究―ディスコース・ポライトネス理論の観点から―」『東アジアへの視点』12 月号、53-59、アジア成長研究所

大友沙樹（2009）「電子メールにおける依頼のストラテジー ―日中対照の観点から―」『国際文化研究』15、61-72、東北大学国際文化学会

金庭久美子・金玄珠（2016）「韓国における日本語学習者のメール文の特徴―メール文の開始部と終了部の表現に注目して―」『日本語學研究』50、1-19、韓國日本語學會

嶋田みのり（2013）「日本語の「誘い」場面における E メールの談話構造と表現形―母語話者と中国人学習者の分析を通じて―」『創価大学大学院紀要』35、217-242

宮崎玲子（2007）「電子メールにおける依頼の展開構造―日本語母語話者とタイ人日本語学習者の対照研究」『日本語・日本文化研究』17、175-184

吉田さち（2009）「韓国人日本語学習者のメール文における『断り』―日本語母語話者との比較を通じて―」『日本語学習者による言語運用とその評価をめぐる調査研究：「日本語能力の評価基準・項目の開発」成果報告書』、国立国語研究所

李佳盈（2004）「電子メールにおける依頼行動 ： 依頼行動の展開と依頼ストラテジーの台日対照研究」『言語文化と日本語教育』28、99-102、お茶の水女子大学

WORASRI, Kulrumpa （2012）「留学経験がないタイ人日本語学習者の語用論的能力の分析（1）―断りメールの構成から―」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』9、9-48

〈謝辞〉本研究は科学研究費基盤研究（C）15K02658 の助成を受けた。